【質疑応答】
■設計に関すること
Q：子どもの棟がガラス張りだが、熊谷は風が強く危険性はないのか。
A：風が強いことを計算に入れて厚さ、サイズを設計している。出入口には風除室を作り、強風が中に入り込まないような検討もしている。風除室が用意できない場合は屋根等による風の緩衝作用などを考えて出入口を配置している。
Q：調整池でのドッグランはトイレまでの距離が相当あり、トイレの位置を考えた方が良いのでは。
A：調整池付近に独立したトイレの設置は考えていないため、食の棟のトイレを使ってもらいたい。また子どもの棟の南側に国が整備するトイレがあるので、その 2 つでカバーしたい。なお、子どもの棟にも小規模のトイレを考えている。
Q：ドッグランと子どもの棟がこの道の駅の売りじゃないかと思った。食の棟、飲食店はどこにでもあるが、ここでは犬を連れて散歩や遊びに来た方が 1 日過ごせると思う。休日には多くの方が来ると思うが、平日来られるのは小さい子供を連れた母親なので、平日にも集客できるように何か工夫をしていただきたい。子どもの棟ではどんな遊びができるのか。
A：ふわふわドームや高さ 2.8m の木の造作遊具を作る。造作遊具は滑り台、ボルダリングのようなもの、登りロープなど、遊びを詰め込んだものを検討している。その外側に水遊び場や築山を設け一体的な雰囲気を出していく。ふわふわドームに関しては、安全対策のため就学児向けと未就学児向けを分けて設置している。その付近に安全な囲いを作り、ウレタンを床に敷いた小さな子供が遊べる場所を作る。各所にベンチを置き、そこで親が見守れるようにするほか、絵本コーナーなども考えている。
Q：場内で子供が怪我をした場合の救護、場内での迷子、そういった時の対応をする総合案内所も必要なのではないか。
A：屋内遊び場がある子どもの棟に管理事務所を設けており、そこに救護室も設けている。管理事務所もオープンな設計にしており、来られた方がすぐに職員に声をかけやすい雰囲気を作っていく。
Q：水遊び場の広さは。
A：現時点では、約 30 ㎡程度で検討中である。
Q：水遊び場に日陰を作る予定はあるのか。見守る保護者のための日陰を作ってほしい。
A：水遊び場、広場の要所要所に東屋や大きな木を設け、その下にベンチを置き日陰で休みながら子供の見守りができるような場所を作ることを検討中である。
Q：子供が遊べたり地元企業がいろいろなものを出したりと、地域活性にはとても良いと思うが、ここはバイパスの脇で周りは田んぼや畑などかなり殺風景な場所である。木が足りないと思うが、市内にサクラはたくさんあるので、いろいろと花の咲く木を植えてほしい。建物が主役の殺風景な施設ではなく、花の咲いた木を見るために子供を連れた人が集まるようなことを考えてほしい。
A：広場について、サクラも検討の中に入っているがサクラばかりでなく、様々な樹木を植えることにより四季を通して何かが色づいているような広場を目指して検討中

である。
Q：屋外の各広場のベンチの設置はどの程度考えているのか。
A：現在実施設計に入ったところで、広場全体を通してベンチや木陰の配置を検討中である。
Q：熊谷の夏の暑さへの対策はどのようなことを考えているか。
A：人が歩く主なところをプロムナードとして雨と日差し対策の屋根を設置し、加えて屋根にミスト装置を設置する。また水遊び場の近くでもミストを出すことで、視覚的にも涼しげな場所を作るようにしている。
Q：SDGs に関連した省エネルギーについては何か考えているのか。ガラスが多い子どもの棟は天然木や断熱材を用いた外壁と比べると熱伝導率が高く、エネルギーを多く使用する。
A：西面、南面にはガラスの前に大きな屋根を設けるなどで直射日光をカバーしているし、通常のガラスよりも断熱性能に優れた特殊なガラスの使用を予定している。また、子どもの棟の屋根にソーラーパネルを設置し、その電気を運営に回して 20%程度の電力を賄う。
Q：熊谷市はゼロカーボンシティくまがやを宣言しており、環境負荷低減対策を徹底してほしい。ソーラーパネルの他にどのように環境負荷低減に取り組んでいるのか。
A：ソーラーパネル以外には、リデュース・リサイクルを意識して木造建築としている。
Q：コンビニを入れる予定はなかったのか。
A：コンビニ誘致について、現時点では考えていない。直売所内の一部は営業時間を延長し、トラックドライバーなど向けの日用品や一般的な飲食物を買えるコーナーを用意する計画である。
Q：熊谷にしかない、その前で写真を撮れるようなオブジェは設置しないのか。全国から来た人が記念撮影をできるものを用意してほしい。
A：費用面を考慮しながら、SNS スポットになるような見栄えのするオブジェのようなもの、または暑い熊谷の木陰の下で写真が撮れるような、視覚的にいいなと思わせるものを現在検討中である。
Q：自転車とバイクのスペースについてはどう考えているのか。
A：駐車場の建物寄りのエリアに整備する。自転車は 30 台程度。大型バイクは駐車マスに止めていただくが、原付バイクは自転車置き場と同じスペースを利用していただく。
Q：駐輪場に屋根はあるのか。
A：雨の日の自転車での来訪者は少ないと考えているため、駐輪場に屋根は付けておらず、建物の軒下で一部駐輪が可能なかたちにしている。バイクは、優先者用スペースと一体的に屋根付きで計画している。
Q：RV パークみたいなものの検討はしなかったのか。
A：検討はしていない。今後の状況に応じて検討を行いたい。
Q：年々電気自動車が普及しているが、充電施設は何ヶ所設置するのか。
A：現状、1 台から 2 台のスペースを用意することで検討中である。
Q：どこの道の駅にも充電器が 2 台はある。これからは需要が多くなるので増やした方

が良いのでは。
Ａ：急速充電器を設置予定で、30 分ほど充電すれば約 200 ㎞くらい走れるようになるため、交代で使用してもらうことを期待している。現在、他の道の駅などの充電器の稼働率は 10%台と低いが、今後の状況を見ながら増やしていく可能性がある。
Ｑ：新設市道には、熊谷スポーツ文化公園から来て 17 号バイパスに通り抜ける車がたくさん出るのではないか。
Ａ：道路を作るにあたり交通解析を実施し、車の交通量を算出して幅員構成などを設計した。通過交通も考慮した道路設計となっている。
Ｑ：土日、連休、夏休み等の混雑時は駐車場 305 台で足りるのか。125 号と 17 号バイパスの出入りによる渋滞発生の可能性はどうなのか。深谷のアウトレットのような専用レーンを設けて、車がスムーズに流れるようにすることも必要なのではないか。
Ａ：駐車場の台数に関しては、全国の道の駅で採用されている計算式により前面を通る道路の交通量から算出している。台数を多くすると維持管理も大変になるので、国の基準を採用し普段の利用数を考慮した台数としている。イベント時に渋滞してしまう可能性もあるが、なるべくそうならないよう入口に誘導員を配置し対応する。
外周道路については、17 号バイパスとＴ字交差ではなく先に抜けられるようにし、熊谷東中学校の西側の南北の通りにつながる計画となっている。17 号バイパスとの十字交差点では信号も付けて制御する予定である。
Ｑ：300 台ちょっとの乗用車に対して 75 台の大型車となっているが、比率として大型車が多すぎるということはないのか。夏場は暑くエンジンを切らないので、環境面への影響が気になる。
Ａ：前面道路の交通量から必要な台数を算出した。他の道の駅と比べて大型車の駐車台数が多いが、17 号バイパス、125 号とも大型車の通行量が多い道路であり、大型車の台数が多くなっている。
Ｑ：市内から来るときの路線バスは考えているか。
Ａ：路線バスについては、バス事業者との調整の中で難しいとの話が出たので、市内循環のコミュニティバスのバス停を道の駅の駐車場に設置することを考えている。
Ｑ：災害時の避難所としては考えているのか。
Ａ：避難所として使える様な設計を考えており、例えば電気に関しては 3 日間供給可能な発電機を計画している。今後防災道の駅として承認いただけるよう、国交省との調整も考えている。
また、本道の駅は今後、熊谷市の防災計画で災害発生時に緊急に非難する場所である「一時避難場所」として地元の方が利用できる位置付けとしていく予定である。
道の駅内に防災倉庫、仮設トイレを用意するが、あくまで一時避難場所であるため、一定期間避難生活をする場合には「くまぴあ」などを利用していただくこととなる。
Ｑ：停電時の非常発電装置は設けるのか。
Ａ：現在、一部の施設については 3 日間使用できるような非常発電装置の導入を考えている。
意見：家族連れで子どもの棟に来るのは平日でなく週末や祝日で、17 時に閉まるのでは夜間に利用できない。フードコートやレストランが赤字にならないためにも、平日

に集客できるようなことを考えた方が良いのでは。平日動いている高齢者が思わず立ち寄り、1 日遊んで食事ができる公園のような施設で、お一人様でも気分転換して帰れるような施設にしてほしい。

意見：木を植えるという話は出ているが花はどうか。ミツバチ族という世代の方がいて、いろいろな花が咲くとそこに行って、写真を撮ったり買い物をしたりする方がいるので、四季折々の花を植えた方が良いのでは。

意見：サクラを植える話が出たが、開花から散るまでの 1 週間程度しか楽しめないものを植えるのは手間ばかりかかるし夏場の木陰としても毛虫がつくので楽しめない。サクラの木に夏の暑さの影響が出ているため、アジサイを植えているところもある。アジサイは 1 カ月位楽しめる。暑い時期に楽しめる花を植えるべき。

意見：いろいろな樹木を植えると思うが、是非よく選定してもらいたい。日陰づくりで常緑樹などを植えると、冬は寒くなってしまう。花は癒し効果があるので、四季折々の花を植えてほしいと思う。日本品種ばかりでなく、外国品種も検討してほしい。

意見：熊谷らしさとして「クマガヤザクラ」や「クマガヤツバキ」もあり、熊谷の特色を出すのに良いのではないか。道の駅全体を見た場合殺風景なので、サクラやツバキといった植栽は非常に重要である。

意見：道の駅へのアプローチは大宮方面から 17 号バイパスを使い、右折で入るケースが多いと思う。信号が付くと思うが、右折信号が短いと渋滞が懸念されるので、警察との信号の調整をうまく行ってほしい。

■維持管理・運営に関すること

Q：各施設の営業時間は。

A：24 時間開いている休憩施設、駐車場以外の部分について、建物内は 9 時オープン、17 時クローズを考えている。フードコートについては 11 時オープン、20 時クローズを考えている。馬車道、鶏彩については、11 時オープン、22 時クローズで予定している。

Q：どのくらいの方がここを利用される想定で事業を進めているのか。道の駅としては道路の休憩所としての目的と、地域の方が買い物したり触れ合ったりと言うような二面性がある。通過交通では 1 日当たりこれくらいの方が利用する見込み、また地元では 1 日これくらいの方が利用してくれるというような目安はあるのか。

A：年間来場者数は立ち寄りも含めて 135 万人～200 万人弱を見込んでいる。前面道路の交通量から算出したトイレ、公園だけの利用者数と、店舗等施設利用者の予測を足し合わせたものである。

Q：車中泊、キャンプなどが考えられるが、警備員の常駐などはありうるか。

A：現時点で夜間の車中泊、キャンプ利用については、一般的な道の駅に従った安全な運用を考えている。場合によっては夜間の警備も検討の必要があると考えている。

Q：犬を連れた来客予想、子供を連れた来客予想数を教えてほしい。

A：現時点では算出を行っていない。

Q：こういった事業では目玉の店舗が重要。ここでしか買えないものがあるようなお店

を誘致する予定はあるのか。
Ａ：様々な事業の諸条件を鑑みて、直売所でのテナントの誘致は考えていない。ただし、運営開始までに市内事業者の方々と連携して魅力的な市内産の商品を用意し、直売所自体が目玉となるようにしたい。
Ｑ：目玉のお店について「道の駅はなぞの」では、有名なパン屋を出店させることで栄えたと聞いた。憧れを抱くような有名店の誘致をした方が市内の人は来るのではないか。
Ａ：市内だけに限らず、広域の商品に目を向けて魅力的な商品展開ができる様に努める。
Ｑ：道の駅は多くある中で、新しく作る道の駅は他と違ってこんなところが特徴で、ここが売りだ、だから来てほしいといった熊谷ならではのものはないのか。
Ａ：直売場に関して、全国約 1200 か所の道の駅について強み弱みを分析した結果、近隣市民を対象にしつつ、テーマパークとなるような直売所にしていきたいと考えている。このため、市民の方々が他県へのお土産として持って行けるような、熊谷市の小麦粉や鶏卵を使ったバウムクーヘンやプリンを自家製造し販売することを考えている。熊谷市の小麦文化は全国にアピールできるコンテンツと考える。
Ｑ：令和 10 年に開業ですが、同時期に鴻巣にも道の駅が開業する。熊谷はあまり尖ったものがないので、鴻巣の方に集客を持っていかれるのではないかと危惧している。
Ａ：熊谷としては、屋内遊び場などの子供の施設を押し出したり、イベントなどで集客したいと思っている。
Ｑ：イベントスケジュールは。
Ａ：これから約 3 年間の開業準備の中で、市内事業者と協力しながら進めていきたい。
Ｑ：直売場内の農機具ディスプレイは刃物などもあり危険ではないのか。
Ａ：農機具ディスプレイはトラクターやトラックを予定しており、刃物などの危険物は取り外す等、安全を最優先に配慮したディスプレイを考えている。また、動かすことは想定しておらず、子供がたとえ触っても安全であるものを展開する。
Ｑ：直売所に納品するのは市内の農家だけなのか。それとも近隣の農家も納品するのか。
Ａ：市内のモノばかりでなく、近隣の市町村含めて幅広い商品を扱う予定である。
Ｑ：若者はラーメンやパンなどの軽食が好きだと思うが、そういったものは扱うのか。
Ａ：メニューは現在検討中であり、フードコートにて気軽に食べやすいメニューを予定している。
Ｑ：フードコートにて熊谷の小麦やヤマトイモを使用したうどんを出すと言っているが、他の熊谷産の野菜はどの程度使うのか。
Ａ：現在フードコートにて提供する商品として考えられるのが小麦粉とヤマトイモ。その他の野菜、フルーツについても何が使えるかメニューを考えながら検討していきたい。
Ｑ：フードコートでうどんを出すとのことだが、小麦に関する熊谷の偉人に権田愛三がおり、これに加えて「小麦の里くまがや」などのネーミングを付けて販売するとプラスアルファになるのでは。
Ａ：ネーミングも含めて検討させていただく。
Ｑ：加工施設を市民が借りて利用することは可能か。

Ａ：現時点では加工施設の貸室利用については考えていない。別で多目的室兼調理室を設けており、こちらは市民の方の利用が可能である。
Ｑ：ガラス張り部分の修繕は必要となるのか。
Ａ：多少のことでは破損しないようなガラス厚の設計をしている。汚れ等について、ガラスは洗浄することできれいになるので他の外壁と同様である。
Ｑ：15 年後の修繕で大丈夫か。
Ａ：ガラス周りのシーリング材の修繕が必要となる。
Ｑ：ガラスにしたことで普通の壁より修繕に費用が掛かることはないか。
Ａ：庇を出してガラス面の高いところに風雨がかからないように検討している。シーリングも他の外壁材とメンテナンスは同程度であり、一般的なメンテナンスとなる。
Ｑ：令和 10 年に開業後、15 年間管理とはどういう意味か。一旦作ったものを 15 年しか管理しないということは考えられない。15 年から先はどのように管理していくのか。
Ａ：今回契約している事業者による維持管理、運営期間が 15 年ということである。15 年後に同じ事業者が継続するか、または新たな事業者が指定管理者として運営していくかという形になる。
Ｑ：本プロジェクトを楽しみにしている人が多数おり、早くオープンしてほしい。段階的に営業開始したり、特産物販売を先行販売するなどのことは考えていないか。
Ａ：道の駅整備については、熊谷市と国交省大宮国道事務所とで整備を進めており、オープンについては令和 10 年 3 月で調整している。道の駅の外周に新しい道路ができるが、そこの信号機の設置についても警察との調整でオープン時期に設置するとしているので、早めのオープンは難しく、また、一斉オープンとなる。
Ｑ：開業の 1 年くらい前に求人説明会をやるとのことだが、どのような職種で何人くらいを予定しているのか。
Ａ：職種については、運営に関わるすべての職種で市民の方々の雇用を考えていきたい。直売所の売り場スタッフ、フードコート、飲食店、外構等の維持管理の職員など、幅広く市民の方を求人したいと考えている。人数はこれから運営の準備をしていく中で決めていきたい。
Ｑ：農村地帯なのに、農業の部分が少ないような気がする。前橋の道の駅では温室で花を作っている。猪苗代の道の駅では 1 年中イチゴの収穫ができる。熊谷でも 1 年を通して、農業に関するものを考えられないか。
Ａ：収穫体験のようなものについては、道の駅の中に整備することは様々な条件があり断念せざるを得なかった。市内の農家と連携し、イベントとして農家にお伺いして子供たちと一緒に収穫体験をするなど、ソフトコンテンツとしてカバーしていきたい。収穫体験だけが農業ではないとも考えており、直売場のイベントスペースを使用して、主に子供たち向けで、市内の農家や農業関係者に来ていただいての講座や試食、調理体験会などを通じて熊谷の農業を体験し、知っていただきたいと考えている。周辺農地についても農家と連携してイベントとして活用していきたい。
意見：一部の施設の終了時間が 17 時というのは、今の時代では早すぎるのではないだろうか。
意見：全国で道の駅は 1250 くらいあるが、他との差別化についてはどうか。施設は良

いと思うが、一般的な野菜やうどんだけではない売りを考えないと、どこにでもある道の駅になってしまう。

意見：子供たちが取りやすいように棚を低めに設定するとのことだが、子供と一緒に買い物をすることはとても良いが、棚の上にカゴを置いて商品をつぶしてしまうことのないよう対応策も考えてほしい。

意見：周辺が田んぼなので、小中学生に稲刈りや田植え体験を行うことも可能だと思う。

■その他

Q：この道の駅が完成するまでの総予算額はどのくらいか。

A：用地取得や道の駅建設工事など約 55 億円である。

Q：イニシャルコストが 55 億円と聞いたが、ランニングコストはどのくらいか。また 55 億円のうち、熊谷市の支出はどのくらいか。木造にすることで、ランニングコストに影響はないのか。

A：55 億円はイニシャルコストとランニングコストを含めた熊谷市の支出である。この中で事業者には 15 年間の維持管理をしてもらうかたちとなっている。

Q：道の駅隣接地への熊谷青果市場の移転についてはどうなっているのか。

A：現在調整中である。

Q：看板が大事。いいネーミングをして熊谷を盛り上げてほしい。一番暑い街、ラグビータウン、ムサシトミヨの地域などいろいろあるが、熊谷市を代表する何かを付けてほしい。モニュメントも熊谷市を代表する何かが必要ではないかと思う。

A：ネーミングに関しては公募する予定である。

Q：説明会はどのタイミングであと何回開催するのか。

A：現状では予定していない。今後の情報の発信はホームページ等でも行っていくが、必要になった場合はこのような説明会の場を設けたい。